

株主・投資家の皆様へ

平成22年7月期(第49期) 中間報告書

2009.8.1 >>> 2010.1.31

Creativity & Challenge

「健全かつ強い体質で永続的に発展する会社」を目指して邁進してまいります。

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社第49期の中間報告書をお届けするにあたり、
ご挨拶をかね、営業の概況等についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 梅森 輝信

● 第2四半期業績の総括

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、一部では景気の悪化に底打ちの兆しがみられるものの、民間設備投資や個人消費の低迷、雇用情勢や所得環境の悪化、さらにデフレ懸念が強まるなど、景気は厳しい状況が続きました。

包装機械業界におきましても、消費者の節約志向並びに低価格指向が顕著になる中で、顧客企業の設備投資の抑制傾向が強まるとともに、輸出も減少するなど、受注環境は一層厳しさを増す状況となりました。

このような状況の中、当社は、新規顧客の開拓、新たなマーケットの開拓、新機種の受注活動の強化に努めるとともに、全社的な経費削減に取り組んでまいりました。

● 第2四半期決算の概況

当第2四半期累計期間における売上高につきましては、前事業年度末の受注残により販売台数が増加したとともに、大型案件が順調に売上を計上できたことから、前年同四半期比114

百万円の増加となりました。一方、受注高につきましては、大手企業向けの大型案件の実績件数が減少したことから、前年同四半期を下回る結果となりました。

収益面につきましては、売上総利益率が前年同四半期並みで推移したことから、売上高の増加に伴い、売上総利益は前年同四半期を上回りました。また、販売費及び一般管理費は、大型展示会費用の発生があったものの、その他経費の削減効果などにより、前年同四半期より減少したことから、営業利益及び経常利益につきましては、前年同四半期より増益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,015百万円(前年同四半期比6.0%増)、営業利益148百万円(前年同四半期比33.4%増)、経常利益153百万円(前年同四半期比31.2%増)、四半期純利益は91百万円(前年同四半期比36.8%増)となりました。

中間配当につきましては、1株当たり3円50銭とさせていただきます。今後も安定配当の継続に努めていく所存であります。

● 通期の見通し

今後の見通しにつきましては、わが国経済は、雇用情勢や所得環境の悪化、設備投資や個人消費の低迷などにより、引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

包装機械業界におきましても、一部に回復傾向がみられるものの、顧客企業の設備投資の低迷などにより、受注環境は厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況の中で、当社におきましては、研究開発の強化、新たなマーケットの開拓などに取り組むとともに、引き続き経費削減に努め、収益の確保を目指してまいります。

通期の売上高予想につきましては、第2四半期累計期間の受注が低迷したことから、当初予想を200百万円下回る3,700百万円となる見込みであります。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費の削減により、通期売上高の減少に伴う売上総利益の減少分をカバーすることが可能な見込みであります。このため、通期の営業利益・経常利益・当期純利益につきましては、当初の予想通りとなる見込みであります。

以上により、通期の業績予想といたしましては、売上高3,700百万円(前期比0.7%増)、営業利益155百万円(前期比14.7%増)、経常利益160百万円(前期比10.6%増)、当期純利益90百万円(前期比8.9%増)を予想しております。



当社は、生活に必要な食品や日用品の安全や衛生に深く関わる包装技術でみなさんの生活を見えない所で支えています。

特徴 1

袋に詰めることが難しい物が得意！

当社製品の最も得意とするのは、小麦粉、ふりかけ、かつお節、お米など、詰める時に舞ってしまったり、形が不揃いだったり、袋に詰めることが難しい物です。

当社は1961年にインスタントジュース、小麦粉、砂糖、塩など粉末状の製品を包装する機械から事業をスタートさせたのですが、特に業界に新風を巻き起こしたのがかつお節の使いきりサイズのミニパック包装です。抱える課題を解決し、包装



機械としてリリースした所、これが大ヒット商品となり、業界での評価が飛躍的に高まった、という歴史があります。

特徴 2

チャック付きスタンドパウチ

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどのお菓子の棚で、良く目にするグミキャンディーのパッケージにも当社の技術が活かされています。袋を立てたまま置いておける上に、封を切った後に内容物がこぼれ出ないように保存するためのチャックが付いています。



特徴 3

海外への事業展開

当社の技術は海外マーケットからも熱い注目を浴びています。海外の高級ペットフードメーカーからの依頼で、ヨーロッパや北米・南米に機械を輸出しており、今後は世界的な需要の拡大に向け、新たな成長を広げてまいります。



より速く、より安全に、より美しく。

内容物や機能ごとに多彩な機種を揃え、オプションも充実。あらゆるニーズへの対応が可能です。

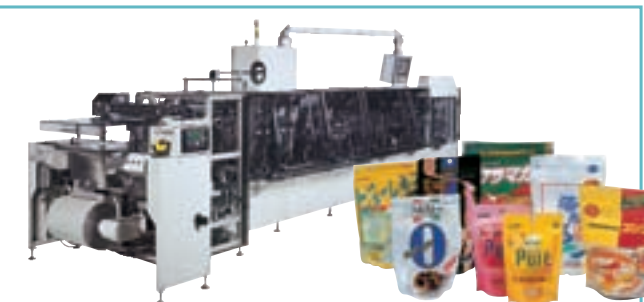
◎ 給袋自動包装機 (ガス充填自動包装機含む)

対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに応え、粉末から固形物まであらゆる充填物に対応できます。また、不活性ガス封入により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



◎ 製袋自動包装機

給袋自動包装機と同様の充填物ですが、小袋の高速包装から大袋用包装までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



◎ 包装関連機器・包装システム

幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能であり、当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱っています。



個人投資家向けIR説明会の開催

当社は、平成21年11月21日に東京証券会館で開催されました個人投資家向け合同IR説明会に参加しました。

今回参加しました説明会は、主催会社からの基調講演の後、参加企業2社がそれぞれ登壇するものであり、約140名の方にご参加いただきました。当社は業界の状況や当社の特徴、経営ビジョンの他にも、海外分野やドライ分野以外へのマーケットの開拓、株主還元策などをご説明しました。

説明会資料は当社ウェブサイトに掲載しております。

http://www.general-packer.co.jp/pdf/ir/gp_091124setsume.pdf



当社ウェブサイト・IRサイトが外部評価で各賞を受賞しました。

日興アイ・アール(株)及び大和インベスター・リレーションズ(株)より当社ウェブサイト・IRサイトの評価結果が発表され、両社ともに受賞対象に選定されました。

特に、日興アイ・アール(株)が発表しました「2009年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」では、新興市場ランキングの最優秀サイト20社のうちの1社に入ることができました。今後もIRサイトを中心に各種情報開示の充実化に努めてまいります。

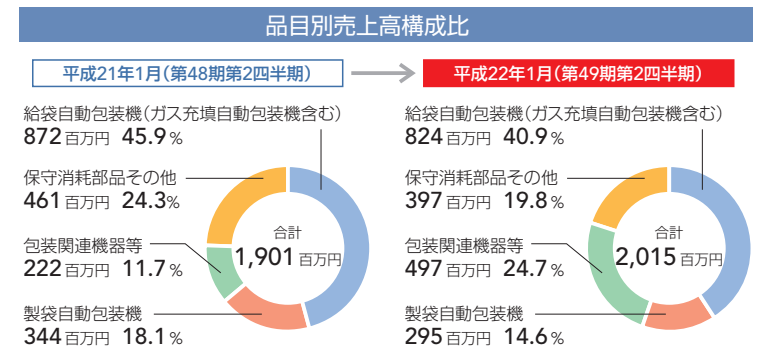
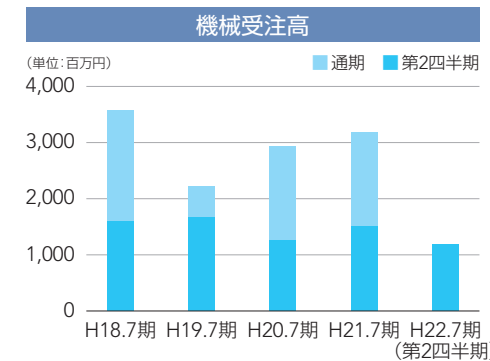
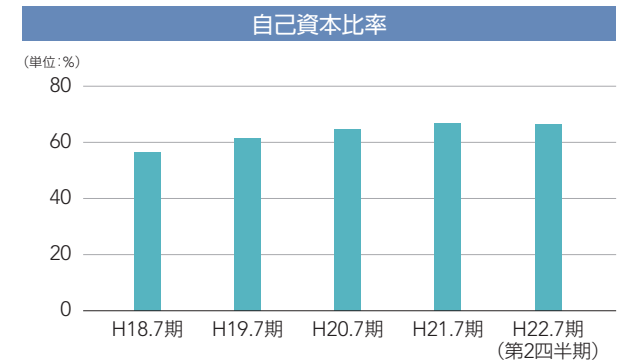
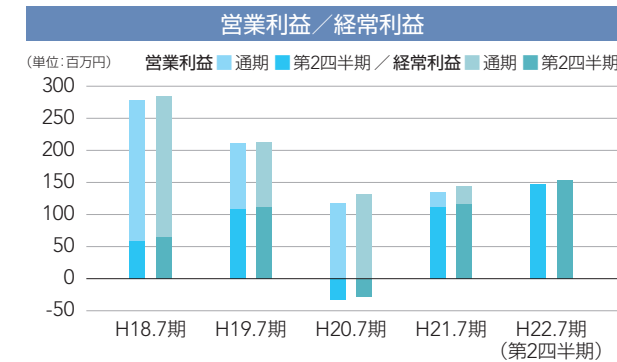
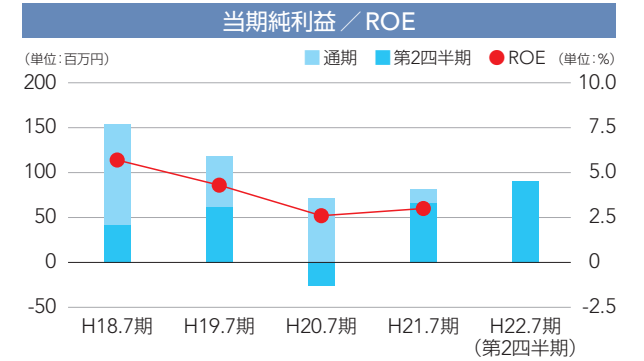
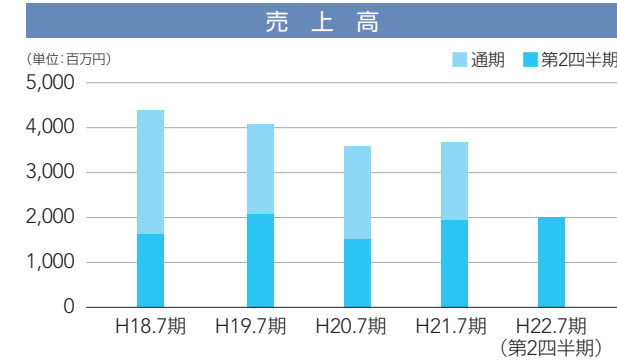


TOPICS

ジャパンパックへの出展

世界18カ国から299社が参加し、国内外を問わず包装機械及び関連機器のトップメーカーが一堂に会する2009日本国際包装機械展(JAPAN PACK2009)が、平成21年10月20日から23日まで東京ビッグサイトにて開催されました。

当社は新規開発の水洗い対応給袋自動包装機を含めた5機種と印字検査装置の展示と、包装システムの映像紹介を行い、ブースにお立ち寄りいただいた皆様へ当社の技術を紹介しました。



財務諸表

● 第2四半期貸借対照表

科目	当第2四半期 会計期間末 2010.1.31 現在	前第2四半期 会計期間末 2009.1.31 現在	前期 (第48期) 2009.7.31 現在
資産の部			
流動資産	3,331,835	3,269,837	3,075,097
現金及び預金	1,547,050	1,053,933	1,200,201
受取手形及び売掛金	973,513	1,161,192	969,302
たな卸資産	634,180	842,045	736,357
未収入金	111,964	153,342	110,518
その他	65,332	59,592	58,913
貸倒引当金	△ 207	△ 270	△ 196
固定資産	979,252	1,138,712	1,109,997
有形固定資産	905,534	941,767	926,403
建物及び構築物(純額)	608,853	640,419	626,788
土地	280,603	280,603	280,603
その他(純額)	16,078	20,744	19,011
無形固定資産	7,754	6,069	7,361
投資その他の資産	65,962	190,874	176,233
資産合計	4,311,088	4,408,549	4,185,094

POINT 1

当第2四半期会計期間末の固定資産は、投資その他の資産に含めていた長期預金を流動資産への振替を実施したこと等により、前期末比130百万円の減少となりました。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 会計期間末 2010.1.31 現在	前第2四半期 会計期間末 2009.1.31 現在	前期 (第48期) 2009.7.31 現在
負債の部			
流動負債	1,400,172	1,534,857	1,313,406
支払手形及び買掛金	950,067	1,160,967	921,192
未払法人税等	62,057	2,682	2,756
賞与引当金	36,826	26,242	29,865
製品保証引当金	13,194	15,838	11,130
その他	338,026	329,127	348,462
固定負債	53,173	60,790	72,281
退職給付引当金	26,093	18,907	26,819
役員退職慰労引当金	27,030	41,810	45,400
その他	50	73	61
負債合計	1,453,346	1,595,648	1,385,687
純資産の部			
株主資本	2,850,990	2,806,724	2,791,105
資本金	251,577	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269	282,269
利益剰余金	2,318,568	2,274,302	2,258,683
自己株式	△ 1,423	△ 1,423	△ 1,423
評価・換算差額等	5,982	6,176	8,300
その他有価証券評価差額金	5,982	6,176	8,300
新株予約権	769	—	—
純資産合計	2,857,741	2,812,901	2,799,406
負債純資産合計	4,311,088	4,408,549	4,185,094

POINT 2

負債合計は、前期末比67百万円の増加となりました。これは主として、固定負債の減少額に対して、仕入債務と未払法人税等の増加額が大きかったことによるものであります。

● 第2四半期損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 累計期間 2009.8.1 ~ 2010.1.31	前第2四半期 累計期間 2008.8.1 ~ 2009.1.31	前期 (第48期) 2008.8.1 ~ 2009.7.31
売上高	2,015,227	1,901,076	3,674,616
売上原価	1,458,180	1,380,536	2,721,380
売上総利益	557,046	520,540	953,235
販売費及び一般管理費	408,383	409,104	817,458
営業利益	148,662	111,436	135,777
営業外収益	5,607	7,975	12,588
営業外費用	850	2,471	3,676
経常利益	153,419	116,939	144,689
特別利益	—	1,762	1,963
特別損失	—	9,982	10,502
税引前四半期(当期) 純利益	153,419	108,718	136,149
法人税、住民税及び 事業税	59,746	945	14,639
法人税等調整額	2,326	40,989	38,884
法人税等合計	62,073	41,935	53,523
四半期(当期)純利益	91,346	66,783	82,626

POINT 3

損益は、売上高増加により売上総利益が前年同四半期比7.0%増加したことに加え、販売費及び一般管理費が前年同四半期より減少したことから、経常利益が前年同四半期比36百万円の増加となりました。

● 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 累計期間 2009.8.1 ~ 2010.1.31	前第2四半期 累計期間 2008.8.1 ~ 2009.1.31	前期 (第48期) 2008.8.1 ~ 2009.7.31
営業活動による キャッシュ・フロー	293,007	162,543	322,800
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 132,775	△ 25,108	3,333
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 31,404	△ 31,477	△ 62,915
現金及び現金同等物 の増加額	128,827	105,956	263,217
現金及び現金同等物 の期首残高	1,161,194	897,976	897,976
現金及び現金同等物 の四半期末残高	1,290,021	1,003,933	1,161,194

会社の概要

●会社概要 (平成22年1月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月 (創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装机・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附帯する一切の業務
従業員数	107名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222



本社

東京営業部 〒101-0045
東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代)
Fax. (03) 3256-3893

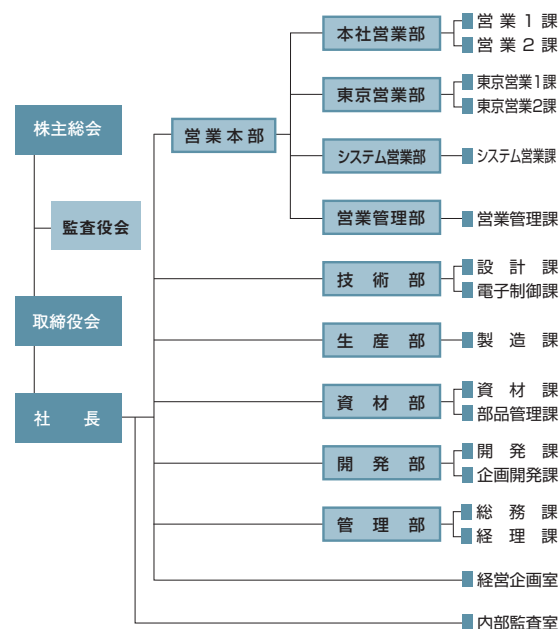


東京営業部

●取締役及び監査役 (平成22年1月31日現在)

代表取締役社長	梅 森 輝 信	
取締役	工 藤 誠 一	生産部長 兼資材部担当
取締役	鈴 木 完 繁	営業本部長 兼東京営業部長
取締役	小 関 幸 太 郎	管理部長
取締役	池 田 勇 次	技術部長 兼開発部担当
常勤監査役	余 川 善 明	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	浅 井 一 郎	

●組織図 (平成22年1月31日現在)



株式情報

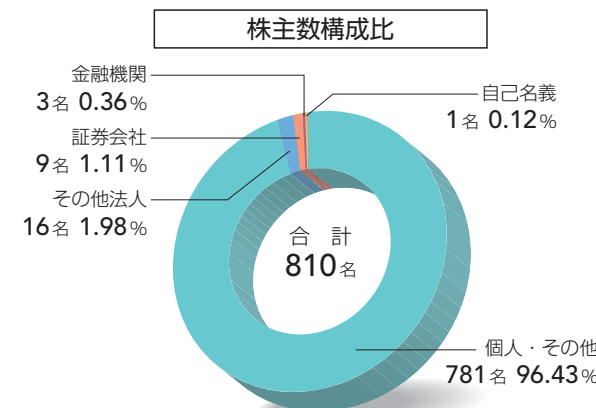
●株式の状況 (平成22年1月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	810 名

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,192,000	13.26
高野 まさ子	800,000	8.90
原 淳	751,000	8.36
株式会社りそな銀行	392,000	4.36
高野 季久美	364,000	4.05
田中 かな	364,000	4.05
安江 禎治	279,800	3.10
ゼネラルパッカー取引先持株会	251,000	2.79
原 利子	224,000	2.49
原 晋一郎	224,000	2.49

●所有者別分布状況



●株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日

株主名簿管理人 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社

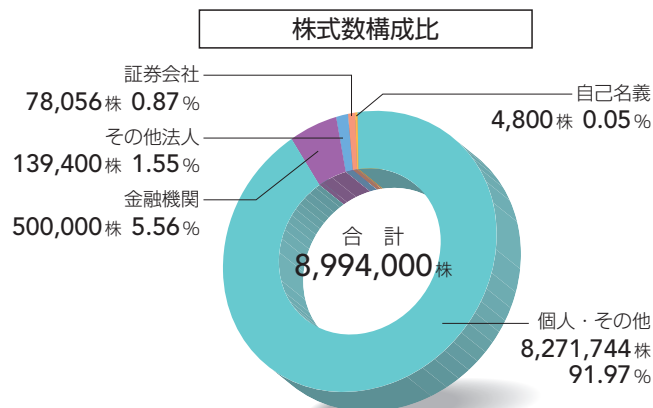
同事務取扱場所 〒460-0008
名古屋市中区栄三丁目7番20号
日本証券代行株式会社 名古屋支店
Tel. (052)261-1781(代)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp>

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構(ほふり)をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
- 証券保管振替機構(ほふり)をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。



ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

IR情報を更新しました。

よくわかる
ゼネラルパッカー物語



携帯サイト



ニュースメール



チャレンジング
カンパニー



<http://www.general-packer.co.jp/>



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

● 本社・工場

〒481-8601 愛知県北名古屋市府寺神明65番地
Tel. (0568)23-3111 (代) Fax. (0568)22-3222

● 東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03)3256-3891 (代) Fax. (03)3256-3893



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。